

あ、あれの噂広めちゃっても？

……

八橋 嫌だよねえ、働きづらくなるよねえ。どっちかは転勤になるよねえ。転勤だけじゃすまないかもしれないねえ。

八橋 あの、それだけは勘弁していただけますか？

旭 もちろん、勘弁するよ。それが僕と君のためだから。それでさあ、若宮。パンツ盗んだのか？

若宮 盗みました。

旭 女子大生のあのフリフリのたくさん着いたやつか？

若宮 それを盗みました。

旭警部、若宮をボードでひっぱたく。

旭 そうじゃないだろう。

八橋 あの、容疑者への暴行は固く禁じられているはずですが！

旭 それは、外にばれたらでしょ。君も僕も若宮も黙っていれればいいんだ。若宮、黙っていられるよな。それが、君のためだ。おっしゃってる意味がよくわかりませんが。

旭 わからなくていい！ これは私と若宮の問題だから。

八橋 はあ？

旭 若宮、悪いことは言わない。容疑を認めるな。

若宮 認めなくていいんですか。

旭 認めなくていい。お前は真面目すぎるんだよ。警察に言われたら、「はい、やりました」って、それじゃあ、つまらないだろ。取調べすぐ終わっちゃうもの。

若宮 でも、やってしまったのは本当ですし、現行犯で捕まりました。

旭 違う、君はパンツを盗もうとした訳じゃない。君は路上で転び、怪我を負い、止血するために近くにあったパンツに手を伸ばしたんだ。

若宮 いえ、私は路上で転んでいません。

旭警部、若宮をまたひっぱたく。

旭 何度言わせればわかるんだ。容疑を認めるな、と私は言ってるんだ。

若宮 否認していいんですか。

旭 当り前だよ、君には黙秘権というものがあるんだ。容疑者に認められている権利を行使しなくてどうする。権利を行使するなら……。

若宮 今でしょ……。

旭 いい子だ。よくわかったかな。

若宮 よくわかりませんが、否認していいなら否認することになります。

旭 じゃあ、あのフリフリのパンツ、盗んだわけじゃないんだね。
若宮 はい、私は盗んでいません。止血のためでした。

旭警部、八橋巡査に

旭 今の書いて。書記。

八橋

あの、この取調べがどうしてこういう方向に向かっているのか
まったくわかりません。下着泥棒を警部は逃がすおつもりなん
ですか？

旭 八橋くん、難しいことは考えなくていいんだ。君はまだ警官に
なって日が浅い。先輩のやり方をよく見ておくんだ。とにかく
書けて言ったものは書け。

八橋

納得できません。

旭

いいよ、じゃあ、あれバラしちゃうから。

八橋

すいませんでした。今すぐ記録いたします。

旭

いいよ、八橋君。君はなんてかわい猫なんだ。ニャンニヤ
ン！ 夜もニャンニャン言ってるのかな？

若宮

……。

旭

完全にセクハラだわ。

若宮

パンツ泥棒が、偉そうにセクハラとかほざいてんじゃねえ！
そうです、だから僕がやったんです！

旭

やってない！ 下着なんて俺がいくらでも買って、お前にくれ
てやる。だから、とにかく否認しろ。

若宮

いや、新品のパンツには興味ないです。一度は使ったやつじゃ
ないと。

旭

じゃあ、俺が全部、一度履いてから、お前にやるよ！

若宮

女の子が履いたパンツじゃなきゃだめなんだ！

旭

この変態野郎め！ 君、家族がいるらしいじゃない。

若宮

はい、妻と娘が一人います。

旭

こんなことして逮捕されたら、一家離散だよ。君は何としてで
も容疑を否認し、無罪を勝ち取らなければならないんだ。こん
な優しい刑事さん、なかなかいないよ。

若宮

そうですね……。

旭

止血だ。止血のためにしよう。傷はあとから俺がつけてやる。

若宮

刑事さん、どうしてそんなに僕のことをかばってくれるんですか？

旭

そりゃあ、お前。奥さんと娘さんが、腹を空かしてお父さんの帰りを待っているというのに豚箱にぶち込むわけには行かないだろう。

八橋

私、ちよっとおトイレ行っていいですか。

旭

書記が席を外しちゃいかんだろ。

八橋

どうせ、全部書けないじゃないですか。

八橋、席を立って出て行く。

若宮

兄さん……。

旭

兄さん？

若宮

兄さん、ありがたいよ。こんな変態な僕をかばってくれて。

旭

この馬鹿野郎！俺はお前の兄さんじゃない。

若宮

兄さん、本当にごめん、こんな迷惑かけて。

旭

だから俺はお前の兄さんじゃない。俺の名前は旭直之、お前の名前は若宮正志だ。

若宮

僕は旭正志だよ。養子縁組で今は若宮だけど。

旭

そんなことはわかってるんだ、何やってるんだ、弟よ。

若宮

兄さん！

旭

弟よ！

旭と若宮、抱き合う。

が、旭はすぐに若宮を振り払って

旭

とんでもないことをしてくれたもんだよ、お前は。

若宮

兄さん、ごめんなさい！

旭

よりにもよって、弟の取調べを兄の俺がやることになるなんて。

若宮

俺もまさか兄さんが出てくるとは思わなかったよ。

旭

いいか、正志、良く聞け。俺は今は警部だが、ゆくゆくは、署長の席を狙ってる。もしも血のつながった弟がパンティー泥棒なんてバレた日には俺の出世街道も『END』だ。お前には何としても無罪を勝ち取ってもらわなければならない。

若宮

どうすればいいの？

旭

さっつきから言ってるだろう。止血のために致し方なくパンツを

若宮

手に取ったんだ。傷はあとから俺がつけてやる。

旭

兄さん、こんなことになってすまない。パンツを盗みたいとい

若宮

う衝動をどうしても止められなかったんだ。

旭

お前、ぶっちゃけたところ、何回やってんだ。

若宮

何を？

旭

下着泥棒に決まってるだろ。

若宮

正直に言っているの？

旭

いまは書記の八橋がいない。正直に言っている。

若宮

30回くらい……いや、40回かな。

旭

馬鹿野郎！ もう筋金入りのパンティー泥棒じゃねえか。弟じ

若宮

ゃなかったらシバキ入れてんぞ、この野郎！

旭

ごめんなさい、兄さん、本当にごめんなさい！

若宮

でもよかったよ、取調べ官が俺で。こんな案件は俺の腕でひね

旭

り潰してやる。

若宮

ありがとう、兄さん。そこまで俺のことを……。

旭

馬鹿、お前じゃない。俺の人生がかかってんだよ。お前みたい

若宮

な。パンティー泥棒がどうなるうが俺の知ったことじゃない。兄

旭

弟じゃなかったらすぐに豚箱にぶち込んで。

若宮

……兄さん、冷たい。

旭

冷たいに決まってるんだろ。兄は刑事。弟はパンティー泥棒。ば

若宮

れたら出世どころか署にいられなくなっちゃうよ、俺は。

旭

いま、思えば20年前、大学受験をあきらめざるをえなかった

若宮

ところから僕の人生は狂ってきた。兄さんが国立じゃなくて、

旭

私立の大学なんかに行くから、僕が大学に行くお金がなかった

若宮

んだ。

旭

大学に行けなかったことと。パンティー泥棒と何の関係もないだ

若宮

ろ。

旭

いや、僕の人生はそこから狂ってきたんだ。高卒の俺は安月給

若宮

の会社に入り、ろくに遊ぶ金もなく、致し方なくパンティーを

旭

盗むようになったんだ。

若宮

普通、致し方なくパンティー盗むようにならんだろ。それはお

旭

前の特殊な性癖以外の何者でもない。

若宮

いいよなあ、兄貴は警察署勤務の刑事で、給料も良くて、ボー

旭

ナスも出て、安定した暮らしを手に入れてる。

若宮

その安定した暮らしが、いま、お前のせいで台無しになろうと

旭

してるんだよ！

若宮

兄さん、俺、正直に話して捕まるわ。

旭

何？

若宮

兄さんの人生をこの僕がめっちゃめっちゃにしてやるよ。俺のほう

旭 旭が頭良かったのに大学行けなかったのは兄さんが私立の大学に入る頭しかなくて金がかかったせいだ。そうだ、こんな境遇になったのは兄さんのせいなんだ。

旭 ちよつと待て。話が違おうほうにずれてる。冷静になれ。そんなことしたら俺の人生もお前の人生もどちらもおかしくなるだろ。死んだ親父に顔向け出来ねえよ。

若宮

もう僕はとつくに顔向けできなくなってる。

旭 正志、落ち着け。冷静になれ。人生なんてどこからでもやり直すことができるさ。「笑顔を忘れないで輝いていよう、そして思いつき生きていこう、きつといいことがあるはずだから」。

若宮

何、それ？

旭

20年ほど前に警察の研修所で、教官から教わった言葉だ。

若宮

全然、胸に響いてこないよ、兄さん。いいことなんて俺の人生にはきつとないんだ。

旭

そんなことはない。今が最低なだけだ。別に人を殺したわけでもなく、誰かを騙したのではなく、ただパンティーを盗んだだけだ。やり直しなんていくらでもできる。

若宮

兄さん！

旭

弟よ！

旭警部と若宮容疑者が抱き合う。

八橋巡査が入ってくる。

八橋

ふっ、ふっ、ふっ……。

旭と若宮、すぐに離れる。

旭

なんだ、八橋君、うすら笑いを浮かべて。

八橋

トイレ行くふりして、全部聞いちゃいました。ちよつとだけ扉開いてたの気付きませんでした？

旭

いや、今のは、あれだ、兄弟ごっこっていうか、若宮を落ち着かせるために兄さん役を引き受けただけなんだ。

八橋

ふんっ、そんな取調べの仕方なんてあるわけありません。なんだよ、お前もスキヤンダル案件持つてるじゃんかよー。

旭

八橋、お前、上官に向かってどういう口の利き方してるんだ。

八橋

このアホがよお。全部、ばらしてやるよ。

旭

そんなことしたら、私も君が交通課の巡査部長と不倫関係にあ

八橋 八橋

八橋

そう来ると思つてました。という事で、今まで劣勢で何も言えなかった私の立場はイーブンになりました。私は不倫、旭警部はパンティーの件、取引しましよ。

旭

不倫とパンティーで条件を交換しようつてわけだ。

旭

お互いにとつてウインウインの関係になりますかどうします？

若宮

警部、出世したいんですよねえ。弟が前科ありじゃ、署長

旭

なんて夢のまた夢になりますよ。

若宮

八橋君、君もなかなかやるね。よしつ、いいだろう、これでイーブンだ。いいよな、若宮。

旭

何が何だかよくわからないけど、兄さんがいいつていうならそれ

旭

でいいよ。警察に入るために署長の叔父に、国家試験の面接

旭

をお金で優遇してもらつた件は黙っておくよ。

旭

なんの話かな。つていうかなんでここでそんな話した？

旭

国家公務員試験、お金を合格したんですか、旭警部！

旭

違う、俺はそんなことしてない。

八橋、何かを記帳する。

旭

八橋、いまの記録しただろ、消せ。

旭

いえ、消しません。私、これで圧倒的に有利になりました。

旭

不倫のこつとぞ！

旭

どうぞ、おつっしやつてください。その代わり、あなたにはパ

旭

ンティー泥棒の弟がいて、国家公務員試験はお金で合格したこ

旭

とバラシちゃいますんで。

旭

バラされたら、俺、どうなっちゃう？

旭

言わずもがな。クビです。

旭

八橋君、君と僕はそんな関係じゃないだろう。もつとフレン

旭

ドリーに行こうよ。人間なんてさ、はたけば埃の一つや二つは

旭

あるものじゃない。つていうか若宮、お前、どうしてそんなこ

旭

と突然言い始めた？

若宮

兄さんのせいで僕は大学に行けなかった。

旭

またその話かなあ、もう兄さん、疲れたよ。許してくれよ。

若宮

正直に罪を認めようと思つてたけど、だんだん腹立ってきた。

旭

不正受験で警官になった兄さんに、パンティーを盗んだことで

旭

とやかく言われる筋合いはないんだ。

旭

だから、最初から、無罪にしようとしてるじゃん。お前が真面

八橋

目にあつさり認めちゃうから、兄さん、頑張つてたんだぞ。二人が兄弟だなんて最初はわかりませんでした。弟さんはお嫁

さんの養子縁組に入ったから、旭ではなく、若宮という姓にな
っていたんですね。

八橋さん、僕は、逮捕されなきゃいけないのは、私ではなく
兄のほうだと思っんですよね。

いえ、二人とも逮捕ですね。

八橋君、どうか二人を許してくれ。こんなバカな兄弟をどう
にか許してもらいたい。

最初の態度が問題なんですよねえ。俺はお前の弱み握ってる
ぞ、的な態度。

旭 その態度につきましては、いま振り返れば、本当にひどかった
と反省しております。どうか、どうか許してください。

八橋 どうしよっかなあ。

旭 不倫、ばれたくないでしょ？

八橋 警部、刑事やめたいんですか？

旭 嘘です。今のは冗談です。刑事でいさせてください！

八橋 二人とも豚箱に入れてえなあ。

旭 正志、何かやれ。八橋さんが喜びそうなことを。

若宮 そんな無茶ぶりされたって。

八橋 金だよ、金出せ。

若宮 そんな、お金だなんて。嫁と子供食わせるだけで精一杯です。

旭 警部は？

旭 君、本当にお金で解決しようとしてるの？

八橋 不倫は不倫で金かかるんだよ。男も一人じゃねえしな。

旭 な、なんと！

八橋 示談にしてやるって言ってんだよ。

旭 警部、財布を出して、全部のお金を取調べ室のテーブ
ルに置く。

八橋 おい、おい、刑事さんよ、そんなはした金で私が納得するとで
も思っつてんのかよ。馬鹿兄弟二人の犯罪を見逃してやろうって
言っつてんのさ。

旭 八橋君、君、だいぶキャラが変わってきてるよ。なんかすこ
い圧を感じるよ。

八橋 オーラって言え、バカ。

旭 若宮、お前もいくらか出せ。

八橋 取調べ中に容疑者が金出せるわけねえだろ。

旭 いや、家に帰ってもらえれば、少しはあるだろうから。

八橋 だから、あたしが納得しなかったら、若宮は帰れねえだろう

が。

そうですね、そうでした、ごめんなさい。

……。

なんだ、この沈黙は？

いや、八橋さんがすぐくっつて。元ヤンキーとかですか？

ヤンキーなわけねえだろ。なんでヤンキーが警察の試験受けんだよ。

そうですね、ヤンキーは警察行かないかも、ですね。

まったくこの馬鹿兄弟がよお……。

あの、八橋さん、八橋さんには兄弟はいないのかな？

いますよ、姉が二人。

ああ、いるんだ。

それが何か？

いや、もしもだよ、万が一にも、お姉さんの取調べを君がすることになったらどうするのかなあ……。

……。

ねえ、やっぱり身内はなかなか裁けないよね。

旭警部、それは私を説得しようとしてるわけですか？

そりゃあ、そうだよ。まず君が協力してくれなきゃ、二人が兄弟だってバレたからにはさ。もう一度聞く。君は、お姉さんを裁けるか？

うちの姉、二人は犯罪起こすような馬鹿じゃありません。

だから、万が一だよ。俺の気持ちも考えていただきたいんですよ！

では、答えましょう。姉を万が一にも取調べすることになった場合……私は……姉を逃がします。

だよね、やっぱりそうだよね。なんだ、八橋ちゃん、わかってくれてるんじゃない。

しかし、いまやっている取調べは私とはまったく関係ありません。今のは私の姉だった場合です。若宮は、私とは何の関係もない人間です。

若宮、もう無理だ。あきらめよう。

だから、俺は最初からあきらめてたんだって。

少しは兄さんの立場も考えて、否認することくらい頭回らなかつたのかよ。こんな事情聴取、適当にやって、罪はつぶすつもりだったのに。

だったら、最初からそう言ってくれよ。

だから匂わせてたじゃない。止血するためだったってことにしたかったんだよ。ああ、終わりだわ。俺の出世街道ここで終わ

旭 若宮

旭 若宮 旭

八橋

旭

八橋

旭 八橋

旭 八橋 旭 八橋

旭 八橋

旭 八橋

旭 八橋

若宮

八橋

若宮

八橋

全員

旭

りだわ。兄弟に前科者がいたんじゃ、もう無理だわ。どうしてくれんだ、この野郎。

すまない、兄さん。俺もまさか兄さんが事情聴取することになるとは思ってたんだよ。

だから、若宮、その辺も俺は微調整してたわけよ。若宮って男が捕まったって情報は俺にも入ってたわけ。それでお前を救うため、いや、自分を守るために、取り調べを志願したわけ。

ああ、もう最初から練り上げられたメンツだったわけですね。私の誤算は八橋君に私の弱点を握られたことだった。巡査部長との不倫ネタで書記を抑え込むつもりだったのに。

ああ、ほんと、どうしようもない兄弟だわ。

八橋 旭
取調べ、最初からやり直そう。若宮、パンツ盗んだんだな、フリフリのついたやつ。

盗みました。

止血のためじゃないんだよな？

残念ながら怪我は負っていませんでした。

じゃあ、起訴だな。

うん。

旭 若宮
てめえ、ふざけんじゃねーぞ。奥さんどうすんだよ。娘の真理ちゃんはどうなるんだよ。犯罪者の嫁と娘になっちまうだろ。

俺はパンティー泥棒の兄で出世街道、台無しだよ。親父とおふくろが聞いたたら、泣くぞ、お前。

兄さん、一つ頼みがある。

何だ？

かつ丼、一つ、出前取ってくれないかな？

若宮

旭警部、若宮をボードで叩く。

旭

馬鹿！ かつ丼っていうのは最後の泣き落としで使うんだよ。お前、もう自分がやりましたって言っちゃってるじゃない。

かつ丼なし！

どうしても食いたい。最後に。

若宮 旭
なあ、正志、わかってくれよ。弟が取調べ室でかつ丼食べてる姿なんてみたたくないよ。

そうよ、肉親がかつ丼食べてる姿なんて見たくないわよ！

あれっ！

何ですか？

旭 八橋
肉親がかつ丼食べてる姿見たことあるとか？

私、そんなこと言いましたっけ？

八橋

旭 うん、いま、力入ってたもん。肉親がカツ丼食べてる姿って。

八橋 ……。

旭 怪しい。

八橋 ……。

旭 八橋君、君の夢はなんだっけ？

八橋 どうしてそんなこと聞くんですか？

旭 それは君、誰しも夢ってものの一つや二つはあるじゃないか。

八橋 例えば、出世とか出世とか。

旭 ……。

八橋 調べちゃおっかなあ、俺。八橋君の家族構成。

旭 どうぞ、ご自由にお調べください。

八橋 あっ、そう。じゃあ、ちよつと出てくるわ。弟は任せた。

旭、取調べ室から出て行こうとする。

八橋 巡査、旭の腕をつかむ。

旭 なになになになに！ ちよつと腕離してよ。

八橋 私のは調べなくていいんです。いまはあなたの弟さんの取り調べをしてるんです。

旭 八橋君、もしかして君の両親、どちらかムシヨにぶち込まれてない？

八橋、うつむく。

旭 調べればすぐにわかっちゃうからね。観念するの早かったね。あれは15年前、雪吹きすさぶ網走（あばしり）の夜でした。

八橋 漁師だった父は憔悴しきった様子で私にこう言いました。冬のオホーツク海は、流水で漁ができない。腹を空かした子供たちのために、毛ガニを食べさせてやりたいが、毛ガニの漁に出ることもできず、金もない。そこで父は私たち、家族のために、漁港で冷凍されていた毛ガニを3杯、こっそりと盗みだしてきてたのです。その日はおいしく毛ガニ鍋をいただきましたが、翌日、父は窃盗がバレて逮捕されました。

旭 あんたの父ちゃん、毛ガニ泥棒じゃん！

八橋 ふふふ、毛ガニ泥棒！ パンツのほうはまだマシじゃね？

旭 警部、私の先ほどの無礼な態度、高慢な発言、お許しください。

旭 いいよ、いいよ、許しちゃうよ。だって、もうこうなったら八橋君も私も同じ立場だもの。当然、私に協力してくれるよね。

八橋

父が毛ガニ窃盗犯であることを内緒にしていたくのが条件です。

旭

もちろんだよ。同じ穴のムジナじゃないか。これから仲良くやっつていこう！

若宮

なんかさあ、弱みの握りあい合戦じゃん。

旭

正志、いいか、こうなったら、お前は何か何でも怪我をしてパンティー取ったことにするからな。お前だって、もちろん起訴されないほうがいいだろ？

若宮

もちろんだよ。

旭

これから、お前を渾身の力でこのボードで引っぱたくからな。その怪我の止血だったと言うんだぞ。

若宮

怖いよ、兄さん。怪我させるために思いっきり叩きそうでもない。

旭

それは仕方ない。

若宮

兄さん、痛いのは嫌だよ。僕は、パンティーを盗んだんだよ。今回の一件だけじゃない。たくさん盗んでる。僕はきちつと裁かれなきゃいけない人間なんだよ。ちゃんと反省しなくちゃいけないんだよ。そうじゃないと人生の再スタートが切れないんだよ。

旭

珍しい犯人だな、お前は。裁かれないなんて。

八橋

旭警部、怪我の止血で持っていくますよ。

旭

うん。八橋ちゃんは素直でいい子だなあ。

八橋、ノートに猛烈な勢いで書き始める。

若宮

やだよ、兄さん、俺を逮捕してくれ。

旭

逮捕はされてんだよ。不起訴に持っていくんだよ。

若宮

絶対、こんなことしたらヤバイって。

旭

ヤバイのはお前じゃなくて、俺なんだよ。一に出世、二に出世、三、四がなくて五に出世なんだよ。警部まで上がってき

若宮

て、ここで打ち止めて五に出世にはいかねえんだよ。いいか、弟

旭

よ。人生とは、人の世とはきれいなことばかりでは進まないように

若宮

にできてるんだ。無罪の人間が冤罪で捕まり、有罪の人間が逃

旭

がされる、そんなことが起こりうる社会なんだ。

若宮

俺、今回、反省しないと、また同じことやっちゃう気がする

旭

よ。そういう性癖なんだもの。

若宮

この変態野郎。次やったら、次も逃がさなきゃいけないじゃない

旭

か。俺がすつごい苦勞するから、次はやめてくれ。どうしてそ

若宮

んなにパンティーが欲しくなるんだ？

若宮

やっちゃいけないことやっちゃってる感じがもうたまらなくて！

旭

俺もお前もやっちゃいけないことばかりだな！

旭と若宮、抱き合う。

旭

って馬鹿野郎。一緒にするんじゃないやねえ。俺はもみ消しはやるがパンティーは盗まないから変態ではない！ いつから正志はそんな変態になっちゃったんだ！

若宮

最近、世の中が、コンプライアンスとか言ってる、法律守れってガチガチの日本じゃん。俺さ、こんなガチガチな社会へのレジスタンスとして、あえてパンティー盗んでるんだよね。

旭

レジスタンス？ お前は革命家なのか。パンティーを盗むことで社会に抵抗していると、そう言いたいのか？

若宮

そうさ、僕は真面目にパンティー盗んでるんだ。

八橋

もうパンティー、パンティーうるさい。黙れ！

旭

八橋君、どうかこの弟を許してやってくれ。こいつはどうやら真面目にパンティー盗んでるらしい。

八橋

精神疾患でいけるんじゃないですか？

旭

無理無理無理。理屈と筋は通っちゃってるから。支離滅裂じゃないから。基本、真面目だし。

八橋

真面目な人がいろいろ盗みませんよね？

旭

おっしゃる通り。真面目発言、撤回します。

八橋

お前のレジスタンスのおかげで、どんだけ女性が迷惑してるか考えろや！

若宮

だから、僕は堂々と起訴してくれと言ってるんです。

旭

正志、だからそれは無理だと何度も言ってるじゃないか。兄とはいえ、こんなに刑事が味方になってるんだから、否認しろよ。

若宮

どこかで止まらなきゃいけない。そう思ってたんだけど、ずっと下着泥棒をやめられなかった。兄さん、正直なところ、僕は捕まって、ちよつとほつとしてるんだ。

旭

俺は心臓がバクバク言ってるよ。お前はそれでいいかもしれないが俺の立場がなくなるんだよ。

若宮

兄さん、もう起訴してくれよ！

旭

いやだ、絶対いやだ！

若宮

現行犯で捕まってるんだから、もうそれでいいじゃない。

旭

お前の人生の破滅に俺まで巻き込むんじゃない。昔から正志には粘りが足りないんだよ。すぐあきらめちゃうんだから。書道教室だって、二年もたなかつたじゃない。

若宮

兄さんは五年やっただけど、俺のほうが字がうまかった。

旭

いや、俺のほうがうまかったって。

若宮

いや、俺のほうがうまいつて。

旭

書道だけじゃない。釣りだって俺のほうがうまかった。

若宮

いやいやいやいや、釣りも俺のほうがうまいつて。

旭

兄さんはダボハゼばかり釣ってて、俺はヤマベ釣ってた。

若宮

ダボハゼだって立派な釣りだろう。

旭

ダボハゼなら誰でも釣れるよ。

若宮

久しぶりに今度、一緒に行くか？

旭

無理だよ。

若宮

どうして？

旭

俺はブタ箱行きだから！

若宮

正志、なぜお前は志願するかのように豚箱に行きたがるんだ？

旭

無理だって。現行犯逮捕されてるんだから。

若宮

怪我して止血で不起訴にしてやろうって言ってんじゃない！ お前が捕まろうとしても、俺が絶対阻止してやるからな。

旭

兄さんは自分の保身のために、俺を不起訴にしようとしてるだけ、俺がかわいいわけじゃない。

若宮

わかってないな。確かに俺の立場はかなりまずい。でもな、弟を救ってやりたいという気持ちもあるんだよ。

旭

兄さん！

若宮

弟よ！

旭

二人、ひしつと抱きしめあう

若宮

二人、ひしつと抱きしめあう

八橋 裸は私が困ります。
旭 じゃあ、雄たけびをあげよう。あーわわわわわわわ！
若宮 あーわわわわわわわわわ！
旭 いいぞ、狂ってきた感じだ。八橋くん、きちっと書いておいてよ。
八橋 わかりました。

八橋、帳面に書く。

旭 カトちゃん、ペっ！
若宮 カトちゃん、ペっ！
八橋 オヤジどもが。ネタが古い。
旭 コマネチ！
若宮 コマネチ！
旭 アイーン！（バカ殿様）
八橋 アイーン！（バカ殿様）
旭 古すぎて寒い。
八橋 そんなに言うなら、八橋ちゃん、狂った真似、やってみてよ。
旭 はっ？ 私が。
八橋 そうお手本見せて。

八橋、旭の頬をひっぱたく。

旭 何するんだ、君は？
八橋 取調べの刑事、いきなりひっぱたくなんて、頭狂ってるでしょ。
旭 まあ、確かに。でもすっごく痛いよ。本意気で殴ってるよね。
八橋 いろいろたまってますのね。

若宮、旭をひっぱたく。

旭 どうして俺がお前にひっぱたかれなきゃいけないんだよ。俺が何か悪いことしたみたいじゃねえか。
若宮 狂うためにはしょうがないよ、兄さん。
旭 そうか、だったら、どんどん殴れ。
（若宮に）一発ひっぱたいたくらいじゃ物足りないから、何発かひっぱたいておいたほうがいいですよ。
旭 いや、これ以上、やったら暴行罪だって、逮捕しますか？
八橋

旭
八橋

するわけないだろ。

じゃあ、もう、バシバシひっぱたいてもらいましょよ。犯人
が取調べの刑事殴るなんて前代未聞でしょうし、精神的に問題
があるってことになるんじゃないですか？

よしっ、わかった。正志、どんどん殴れ。

いや、でも兄さん。

遠慮するんじゃない。思いっきりひっぱたけ。

それが、兄さんを守ることになるんだね？

そうだ、俺が殴られることで、俺は助かるんだ。

じゃあ、兄さんのために思いっきり叩くよ。

こいつ、正志、未来を自分で切り開け。

じゃあ、行くよ、兄さん。

カモン、ブラザー！

旭
若宮
旭
若宮
旭
若宮
旭
若宮

若宮、旭を渾身の力でひっぱたく。

旭、倒れてピクリとも動かない。

八橋巡査が、旭警部の様子を見る。

八橋

意識ないですね。

若宮

死んでないよね？

八橋

たぶん。

若宮

兄貴が起きなかったら殺人犯になっちゃうじゃん。

八橋

それでもいいんじゃないですか、このバカ兄弟。

〈幕〉